

<京表糊、京表糊「極kiwami」 共通標準希釈濃度> 水温 23℃程度を想定

	元 糊	水
裂地裏打	100 g	60～65cc
絹地本紙裏打	100 g	60～65cc
紙本裏打	100 g	750～800cc
中裏打	100 g	1050～1100cc
総裏打	100 g	950～1000cc

<使用上の主な注意事項>

1. 地入れ（水引）した裂地は、必ずよく乾かしてから裏打して下さい。また、肌裏の糊が薄いと表に糊が出ますのでご注意ください。刷毛はしごき刷毛の使用を推奨します。
2. 裂地裏打の場合、裏打紙に糊付後は、なるべく手早く裏打をして下さい。
3. 裂地の裏打紙は、薄美濃風の紙が使い良く、仕上がりもしなやかです。
4. 中裏、総裏等に使用する薄糊は、必要量だけ溶いて、残りは翌日使用しないで下さい。（接着力が低下するため）
5. 冬期は、ぬるま湯（30℃程度）を使用すると、糊が溶きやすいです。但し、それ以上の温度で糊を溶きますと、接着力が低下する場合がございます。
6. 糊は標準希釈濃度より、少々濃すぎる位が良いです。多少濃くても仕上がりに影響は出ません。最初は、1～2割程度濃い目で使用されてから、様子を見て希釈濃度を変えてみてください。

<主成分>

エチレン・酢酸ビニル共重合エマルジョン、CMC、水

<注意事項>

- ・気温5℃以下では使用しないで下さい。
- ・他の糊との混合は避けて下さい。
- ・糊は密封して保存し、5℃以下、あるいは30℃以上の所に放置しないで下さい。
- ・衣料に付着した時や、他所を汚した時には、直ちに水で洗い流して下さい。
- ・幼児の手の届かない所へ置いて下さい。
- ・用途以外には使用しないで下さい。
- ・皮膚に付着した場合はよく水で洗い、荒性の方はクリーム等で手入れし、医師に相談して下さい。
- ・万一飲み込んだ場合は、吐き出させる等の処置をして下さい。目に入った場合には、すぐに水で15分以上洗い流し、いずれの場合も医師に相談して下さい。